

平成29年12月 5日

江差町議会議長 打越 東亜夫 様

社会文教常任委員会

委員長 小林 くにこ



### 委員会調査報告について

本委員会に付託事件の調査事件について、会議規則第78条の規定により、次のとおり報告します。

#### 記

1. 調査事件 平成29年第2回定例会  
発議第14号 福祉行政に関する事務調査について
  
2. 調査期日  
平成29年 6月27日 調査内容の絞り込み  
7月13日 子ども福祉事業の現状と課題について（担当課聞き取り）  
8月 2日 担当課聞き取り調査のまとめについて  
9月 5日 現地視察について  
9月25日 子ども福祉現場を視察  
（育児サポートサークルキティ及びかもめ・日明保育園）  
10月11日 現地視察のまとめについて  
11月 1日 これまでの調査のまとめについて  
11月28日 調査報告書協議

#### 3. 調査の結果

平成28年に児童福祉法が大きく改正され、すべての子どもが、福祉が等しく保障される権利の主体であることを理念として、改めて明記された（第1条）。そして、子どもが良好な環境の中で生まれ、社会のあらゆる分野において、年齢や発達の程度に応じてその意見が尊重されるなど、子どもが心身ともに健やかに育成されるよう努めなければならないとしている（第2条第1項）。その上で地方自治体は、保護者とともに子どもの心身の健やかな育成に責任を負うとしている（第2条第3項）。

当町で実施されている子どもの福祉については「江差町子ども・子育て支援事業計画」に基づいて実施され、一定程度、制度として成果の上がっているものがあるが、さらに子育て環境や子育て支援を積極的に取り組んでいく必要があると考え、担当者からの聞き取り調査と現地視察を実施した。



これら調査結果について、次のとおり意見を付して報告する。

<意見>

1. 乳幼児保育に関して、ニーズが高いものの、保育士確保が困難なことから充実していない現状がある。現在の保育園の保育士は、臨時の保育士によって運営が維持されている。このままの労働環境では、保育士の採用などに大きな課題があり、待遇、処遇、労務管理などを改善し、保育士の確保に向けた対策を早急に取り組むべきである。
2. 民間のボランティアによる育児サークルは、子育て世代の転勤者が多い江差町の特性を踏まえると、保護者の交流の場として大きな役割を果たしている。  
しかし、ボランティア活動の中で、人手不足や育児スペース不足、遊具不足が課題となっており、何らかの行政支援を検討すべきである。
3. 江差町では、0歳児からオムツやミルク、おしりふきなどの消耗品に関する補助制度があるが、近隣町と比較しても必ずしも満足できる内容となっていない。  
子育て対策には、一歩前へ踏み込み、上記対策の充実を含め、給食費の助成枠の拡大などの施策が望ましいと考える。
4. 江差町での充実した子育て環境を作るには、保育園等の施設の老朽化に伴う改修及び改善等が必要である。  
また、都市公園等は計画的な整備が望ましい。特に冬期間の子どもの遊戯施設なども検討していくべきである。  
加えて、保育園によっては、園外的环境（野生動物）に注意すべき園もあり、対策を検討すべきである。

以上